

東アフリカの開発と参加

初期的考察

龍谷大学 斎藤文彦

2005.10.24 於GRIPS
斎藤文彦

タンザニア

- 参加型貧困調査 PPAの実施とその問題
 - 結果がほとんど知られていない
- O&ODの経験と今後の課題
- 質的情報をいかに活用するか
 - 行政機関の質的情報への適応力と体質変化
 - 量的・質的情報の役割分担ならびに行政の協働
 - 統計局とそれ以外の機関

2005.10.24 於GRIPS
斎藤文彦



斎藤文彦



斎藤文彦

ケニア

- 憲法改正による自治の強化
- 参加型貧困調査の将来的実施？
- LASDP (Local Authority Service Delivery Programme)

2005.10.24 於GRIPS
斎藤文彦

ウガンダ

- 経済運営は着実に進展といえるか。
- PPAの教訓は各方面に展開：
 - 統計局と他の機関の連携
 - 質的情報の開発計画への反映
 - 貧困モニタリングへのフィードバック
- 政治的にはムセベニ政権の長期化とNRM体制の独裁化により、政治的信頼が低下。
 - 政治的にはブガンダ王国と連邦制の課題が深刻。
- 政治的打算が国家経済の基盤を損ないかねない。

2005.10.24 於GRIPS
斎藤文彦

まとめ

- マクロな政治経済状況の変化: 新自由主義、ポスト・ワシントンコンセンサス、民主化、などは共通事項
- 各国の政治的状況の違い: 参加の土台の差異。
- 比較研究に向いている。
- 実際に3ヶ国の関係者は隣国の状況についてほとんど知らない。

2005.10.24 於GRIPS
高藤文彦